

あぐりサポートニュース

～12市町村 復興再生への取組《浪江町》～

(公財)福島県農業振興公社

浪江町における営農再開状況及び営農再開に向けた取組紹介

浪江町では、震災前の営農面積(2,034ha)に対し、令和4年度の営農面積は373ha(うち水稻244ha)【浪江町調べ】です。住民の帰還率は、未だ1%ほどであり、多くの農業者が避難先から町内へ通いながら農業を行っています。市町村コーディネーターとして、各地域の担い手組織の意向把握や、営農再開に向けた地域の話し合いへの参加、農地バンク事業を普及活動等を行い、担い手への農地集積・集約化を図り浪江町の営農再開に貢献していきたいです。以下については、町内で活躍している各地域の担い手の紹介となります。

《浪江町たまねぎ生産組合》

平成31年3月に設立され、生産しているタマネギは福島県浜通りのオリジナル品種の『浜の輝(はまのかがやき)』で、他品種よりも甘みが強く、産地化に向けた主力品種として期待を集めています。タマネギ栽培は平成28年度に実証栽培が始まり7年目となります。令和4年11月にタマネギ生産の先進地である兵庫県南あわじ市を視察訪問し、先進地での取組を参考に、被災地域での更なる規模拡大を検討しています。



浪江町たまねぎ生産組合



玉ねぎ(浜の輝)

《農事組合法人 西台生産組合》

平成31年3月に設立され、令和5年度から水稻・小麦の二毛作を開始する予定でいます。また、スマート農業の導入に着目し、ドローンを使って農薬散布等を行い、効率的な営農に繋がる取組をしています。



(農)西台生産組合

《加倉生産組合》

大字加倉地域の農地の保全・耕作を行っている組織で、県営ほ場整備事業 加倉地区の担い手に位置付けられています。今後に向けて規模拡大を検討しています。



加倉生産組合



《市町村コーディネーター 自己紹介》

浪江町担当の発田かおり(ほった かおり)です(南相馬市出身)。浪江町役場の農林水産課に駐在しております。

今後も地域の皆様との話し合いを第一にし、町や各関係機関との連携を図りながら、東日本大震災前の『稲穂たなびく田園風景を再生する』という農業者の想いが形になる様に尽力していきたいです。



発田コーディネーター